

様式1(主な取組)

「主な取組」検証票

施策展開	2-(6)-ア	地域特性に応じた生活基盤の整備	施策	② 安定した水資源の確保と上水道の整備
			施策の小項目名	○水道施設の整備
主な取組	水道施設の整備		実施計画記載頁	158
対応する主な課題	②ライフラインである上水道の整備については、安全な水道水を将来にわたって安定的に供給するため、今後の水需要や水質の安全性を確保するための施設整備や老朽化した施設の計画的な更新、耐震化を進める必要がある。また、小規模水道事業の運営基盤の強化や水道サービスの向上が求められている。			

1 取組の概要(Plan)

取組内容		年度別計画				
		29	30	31	32	33
安全な水道水を将来にわたって安定的に供給するため、北谷浄水場、名護浄水場及び石川～上間送水管等の整備を推進するとともに、老朽化施設の計画的な改良、更新及び耐震化を行う。		42%				44%
		基幹管路の耐震化率				
実施主体	県					
担当部課【連絡先】	企業局配水管理課		【098-866-2810】			
		水道施設(企業局管理)の整備、更新・耐震化				

2 取組の状況(Do)

(1)取組の進捗状況 (単位:千円)

予算事業名	沖縄水道水源開発等施設整備事業						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
一括交付金(ハード)	直接実施	11,914,535	15,286,261	12,151,553	13,716,252	11,816,966	13,945,980	一括交付金(ハード)	○H29年度: 北谷浄水場整備(特高受変電設備工事、粒状活性炭吸着池設備工事等)、石川～上間送水管布設工事、水道広域化施設整備等の実施 ○H30年度: 北谷浄水場整備(粒状活性炭吸着池設備工事、オゾン接触池設備工事等)、石川～上間送水管布設工事、水道広域化施設整備等の実施
予算事業名	-						H30年度		平成29年度活動内容と平成30年度の活動計画
主な財源	実施方法	H25年度 決算額	H26年度 決算額	H27年度 決算額	H28年度 決算額	H29年度 決算見込額	当初予算額	主な財源	
		-	-	-	-	-	-		○H29年度: - ○H30年度: -

様式1(主な取組)

活動指標名	基幹管路の耐震化率(上水道)				H29年度			H29年度 決算見込額 合計	進捗状況	活動概要
実績値	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	実績値(A)	計画値(B)	達成割合 A/B			
	35.4 (H24年度)	36.6 (H25年度)	38.7 (H26年度)	40.0 (H27年度)	40.8 (H28年度)	41.8 (H28年度)	97.6%	11,816,966	順調	活動概要 北谷浄水場整備(特高受変電設備工事、粒状活性炭吸着池設備工事等)、石川～上間送水管布設工事、水道広域化施設整備等の実施  進捗状況の判定根拠と取組の効果 平成29年度事業の実施により耐震化率は、H29計画値(41.8%)に対し、実績値は若干下回る見込みだが、順調に進んでいる。 これにより、持続可能で災害に強い水道が構築され、安全で低廉な水道用水を将来にわたって安定的に供給することが可能となる。
活動指標名	—				H29年度					
実績値										
活動指標名	—				H29年度					
実績値										
(2)これまでの改善案の反映状況										
平成29年度の取組改善案						反映状況				
①引き続き水需要や水質の安全性に対応した施設整備及び水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)の手法を取り入れ、老朽化施設の計画的な更新に取り組み、あわせて耐震化を進める。						①アセットマネジメント(資産管理)の手法を活用した上で老朽化施設の計画的な更新に取り組むとともに、各浄水管理事務所との情報交換を行って施設の状態を把握し、優先順位をつけて施設整備計画に反映させた。				



## 様式1(主な取組)

### 3 取組の検証(Check)

(1)推進上の留意点(内部要因、外部要因の変化)

#### ○内部要因

・本土復帰後、年々増大する水需要に早急に対処するため、水道施設の整備を早急に進めてきた。これらの水道施設の経年化が進み大量に更新時期を迎えるため、計画的な施設の更新が必要である。  
・安全な水を将来にわたって安定的に供給するため、今後の水需要や水質の安全性を確保するための水道施設の整備に取り組む必要がある。

#### ○外部環境の変化

・島嶼県である本県において上水道施設が地震等により被災した場合、他府県からの支援等が困難であり、広範囲かつ長期にわたる断水の発生が予測されることから、水道施設の耐震化等に取り組む必要がある。

(2)改善余地の検証(取組の効果の更なる向上の視点)

・本土復帰以降に整備した施設が大量に更新時期を迎えるため、施設の重要度や劣化度等を検証し、施設整備計画を精査の上、必要に応じて見直しを行う。それを踏まえ、計画的に施設整備をすすめる必要がある。

### 4 取組の改善案(Action)

・引き続き水需要や水質の安全性に対応した施設整備及び水道事業におけるアセットマネジメント(資産管理)の手法を取り入れ、老朽化施設の計画的な更新に取り組み、あわせて耐震化を進める。